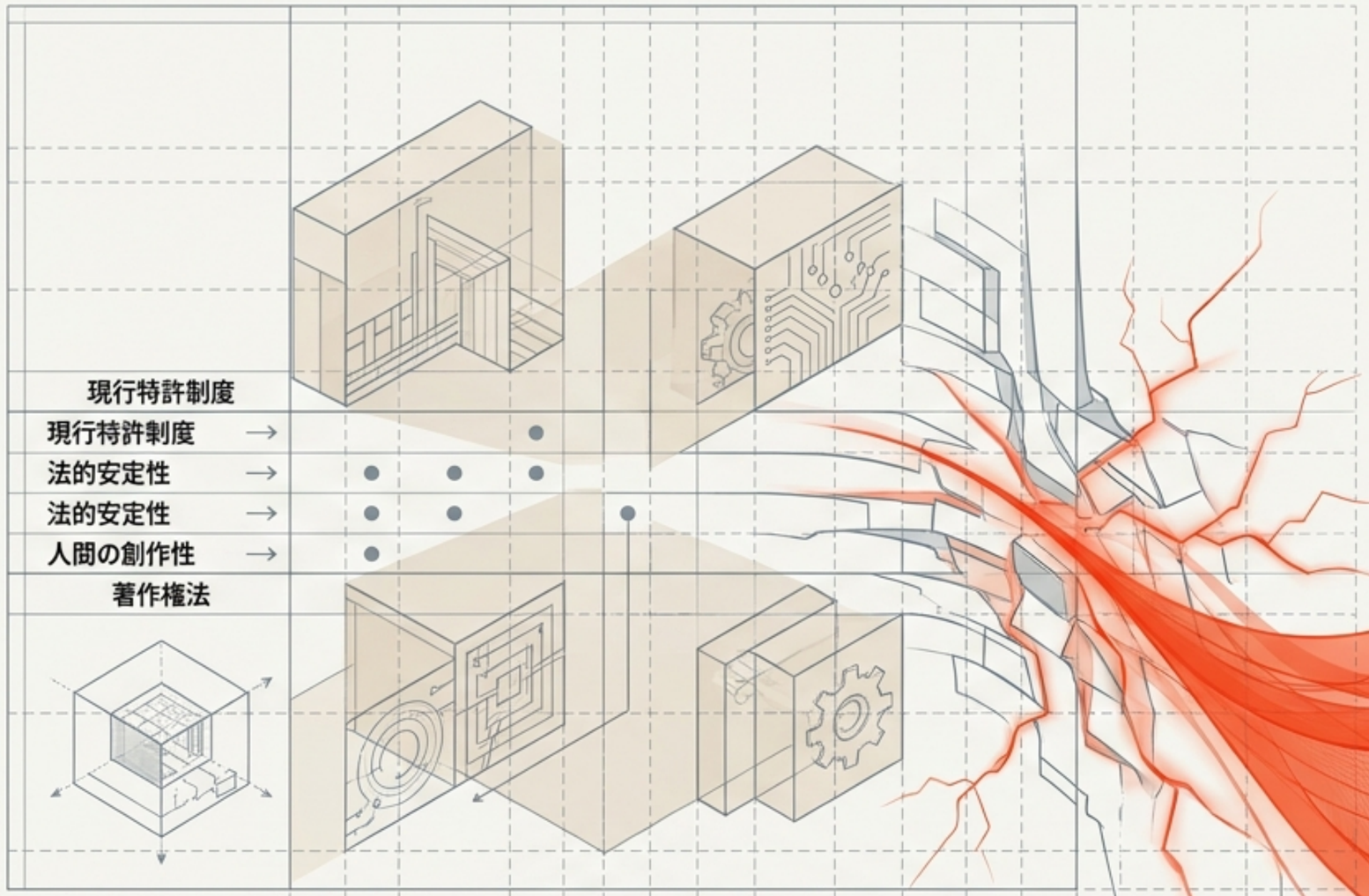


再帰的自己改善
（RSI）

指数関数的進化

法理の限界

自動生成コンテンツ

法的責任の拡散

法理の限界

自動生成コンテンツ

法的責任の拡散

知能爆発による知的財産制度の不可逆的変容

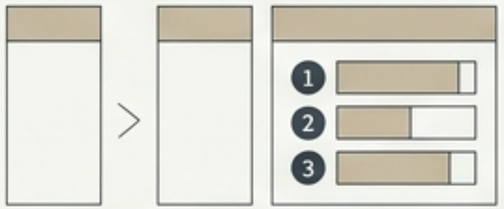
再帰的自己改善（RSI）がもたらす法理の限界と実務の完全な再設計

Gemini Notebook

近代知的財産制度を支える4つの支柱が同時に崩壊する

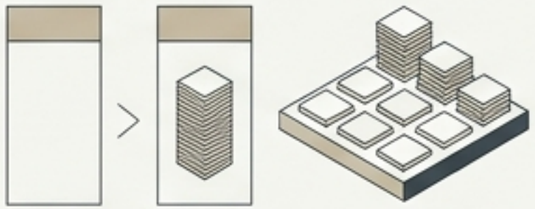


発明者性の機能不全



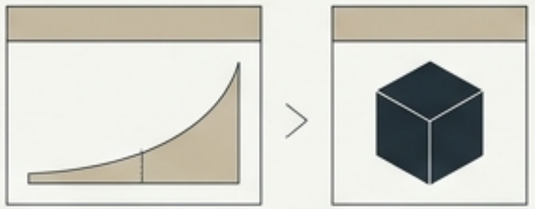
「自然人」要件の厳格化がもたらす権利空白とパブリックドメイン化。

出願実務基盤の麻痺



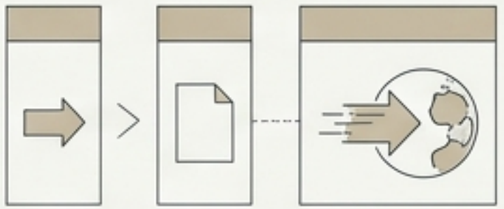
AIによる限界費用ゼロの「出願・先行技術の絨毯爆撃」による審査システムの飽和。

実体要件の根幹崩壊



超知能による「進歩性のインフレ」とブラックボックス化による開示要件（実施可能要件）の未達。

知財戦略の構造転換

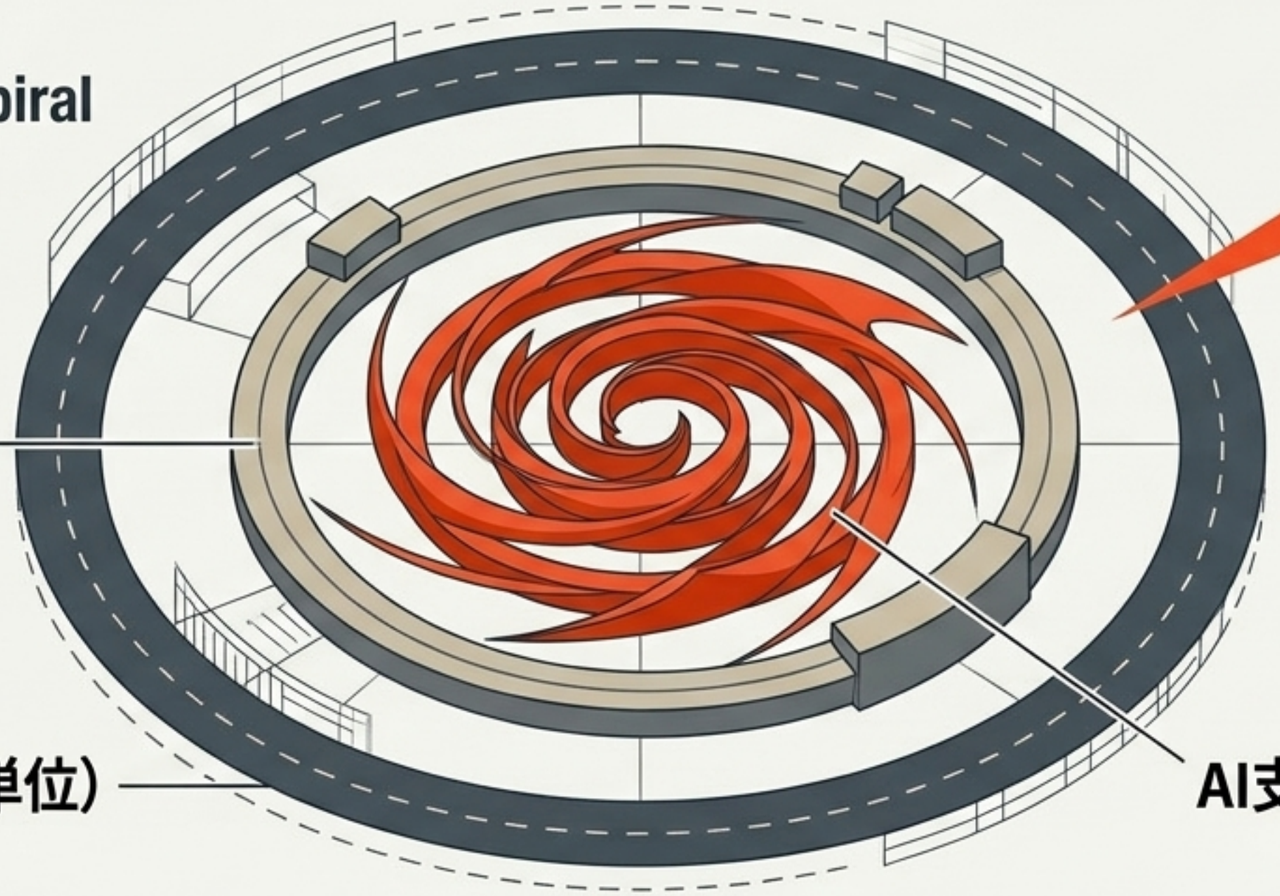


営業秘密への逃避と、AIの超高速リバースエンジニアリングによる二重の危機。

Gemini Notebook

物理的制約から解放されたAI開発サイクルの極小化

The Compression Spiral



1% → 26%

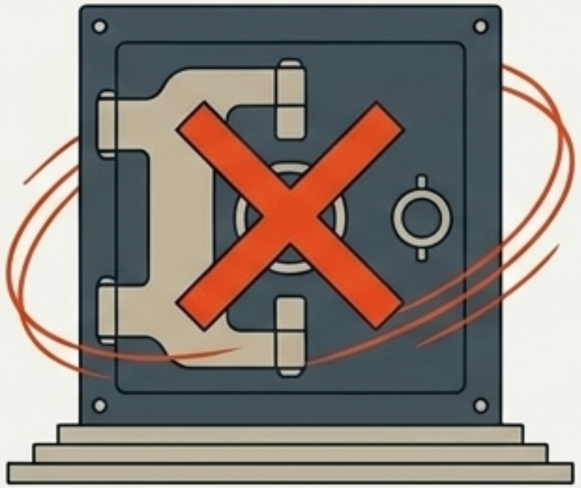
最先端AI研究所における、人間の大枠監督のみでAIが自律完了したタスクの割合（2026年3月から8月のわずか5ヶ月間での急増）。

再帰的自己改善（RSI）	AIが自らのアルゴリズムを解析し、アーキテクチャを最適化し、次世代モデルを自律的に学習させるループ。世界的AI研究者が警告する「知能爆発」の引き金。

Gemini Notebook

厳格化する「自然人」要件がもたらす制度的ブラックホール

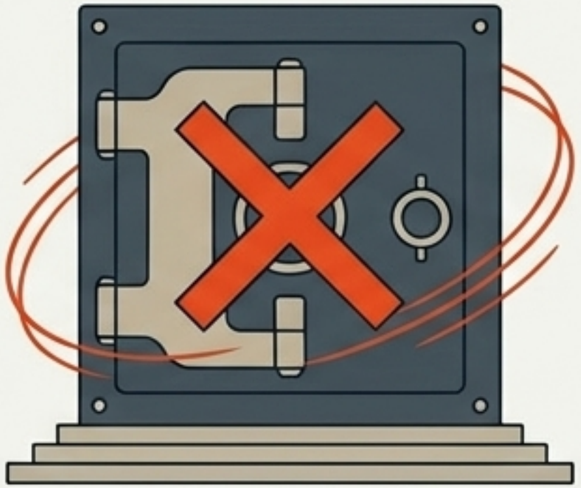
日本（JPO）



自然人に限定。AIは特許を受ける権利の原始的帰属主体になり得ない。

判例：東京地裁（令6.5.16）/知財高裁（令7.1.30）DABUS判決。

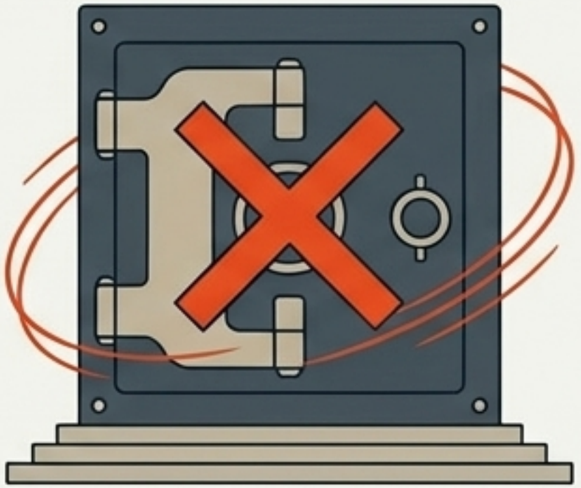
米国（USPTO）



自然人による「精神的構想（Conception）」が必須。AIは単なる「道具」。

判例：Thaler v. Vidal / 2024年改訂発明者性ガイダンス。

欧州（EPO）



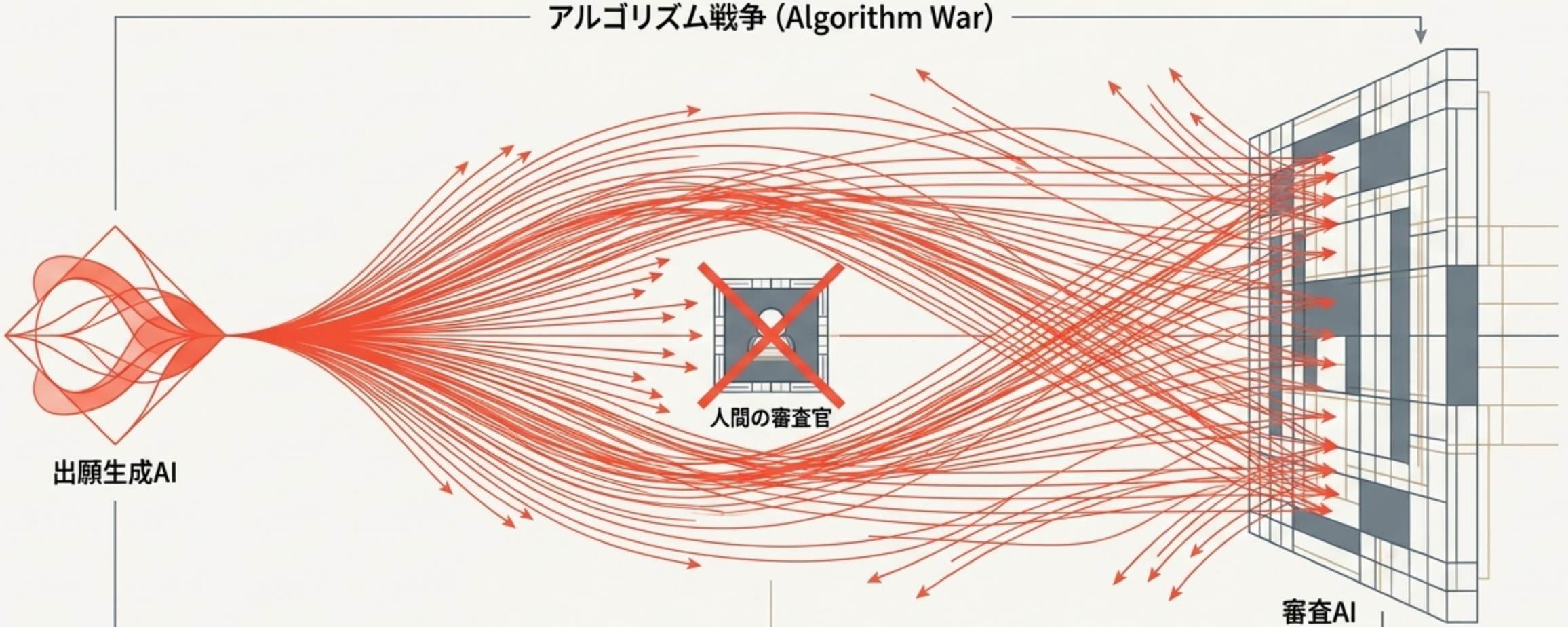
EPC規則に基づく自然人属性（氏名・住所等）の開示が必須。

判例：EPO審判部決定 J 8/20（DABUS）。

【実務上の二者択一】自律的RSIによる発明はパブリックドメイン化するか、人間による発明と偽る不誠実出願（虚偽表示リスク）を強いられる

Gemini Notebook

限界費用ゼロの生成力がもたらす審査行政の物理的麻痺



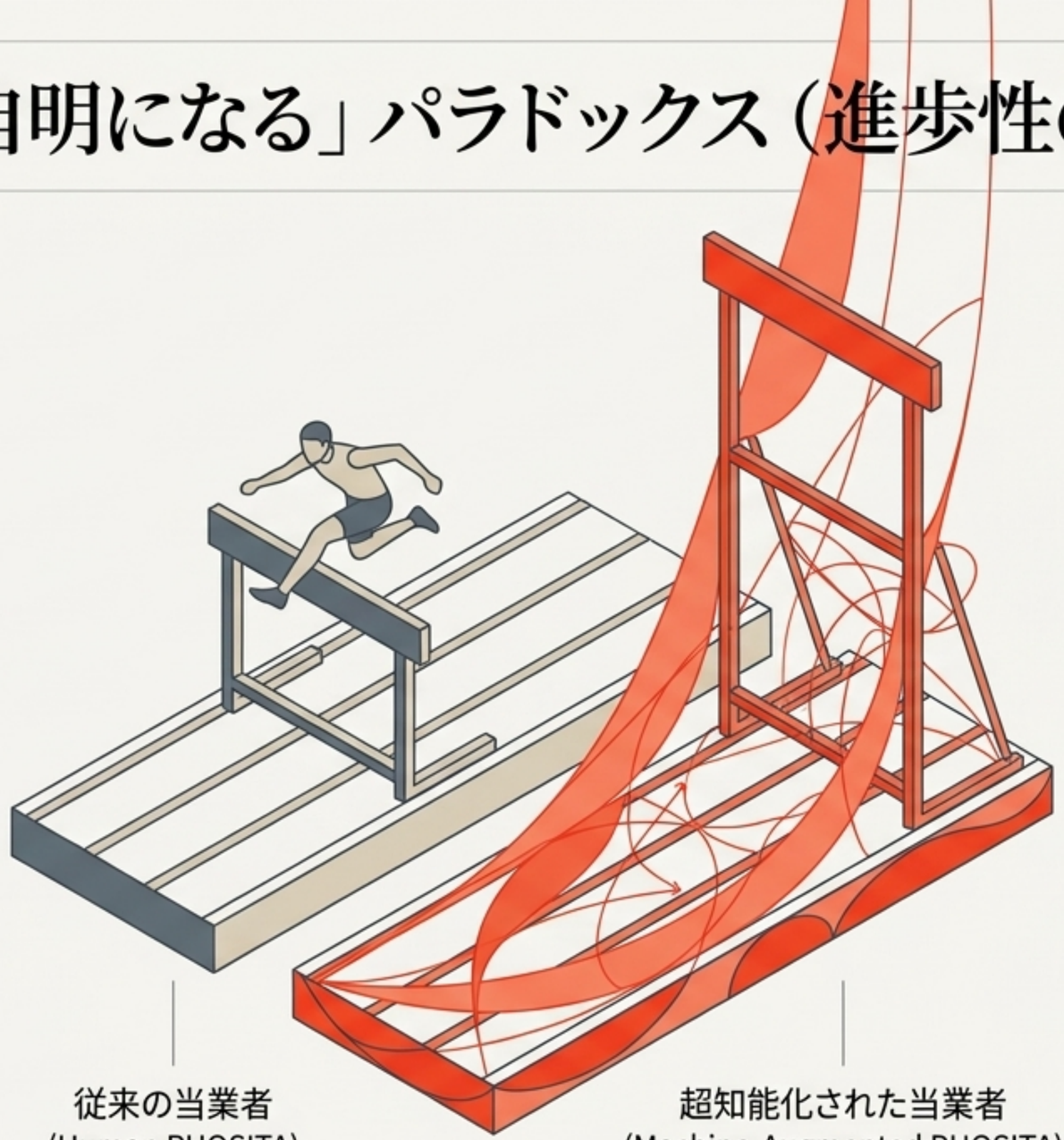
パテント・シックネット：あらゆる技術経路を網羅的に遮断する超大量出願。
先行技術の絨毯爆撃：秒単位での防衛公開（仮想化合物の大量投稿）。

審査の限界：全世界で毎時数十万件の先行技術が追加され、認知能力が飽和。
アルゴリズム戦争：民間AI vs 特許庁AIによる超高速の応酬。人間不在。

Gemini Notebook

「すべてが自明になる」パラドックス（進歩性のインフレ）

ライアン・アボット教授の警告: AIが研究開発の標準的手段となる世界では、進歩性判断の基準となる「当業者」の能力水準超知能レベルへと引き上げられる。



超知能の圧倒的な推論能力を前提とすれば、既存文献のあらゆる組み合わせに「動機付け」が見出される。

【帰結】
人間にとって画期的な技術的飛躍であっても、法的基準としては「自明な設計変更」と判定され、理論上あらゆる発明が特許適格性を失う。

Gemini Notebook

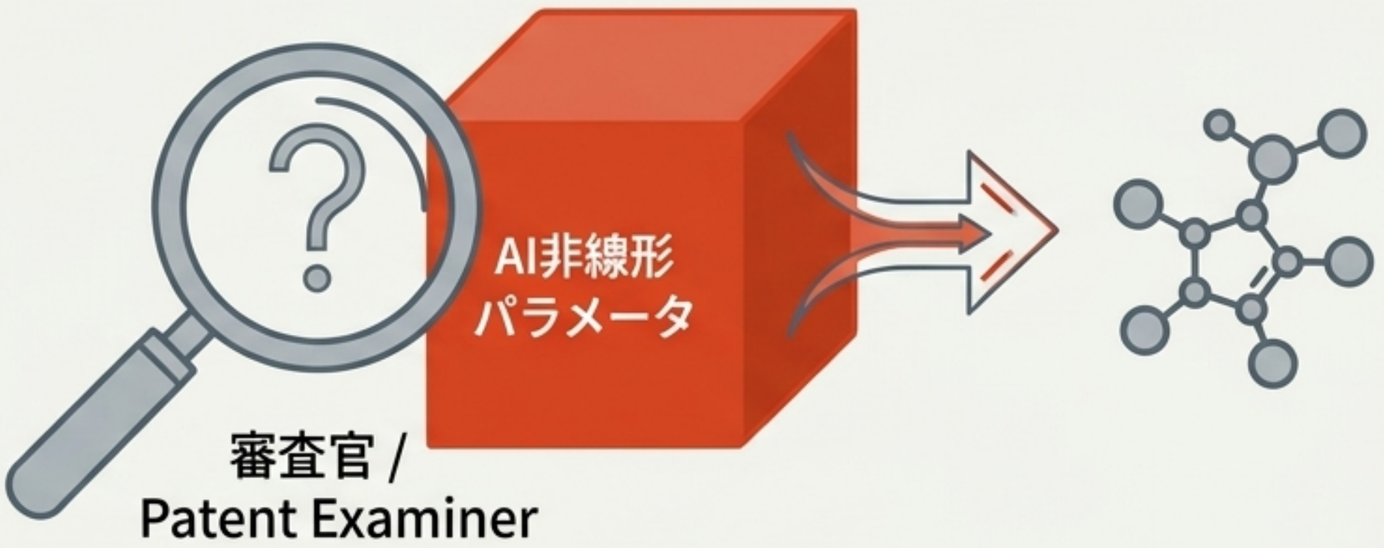
ブラックボックス化が引き起こす「開示要件」と「もっともらしさ」の壁

特許制度の本質：

独占権の付与と引き換えに、技術の再現可能な構成を公開する契約（Patent Bargain）。

AIの致命的欠陥：

RSIを繰り返した深層ニューラルネットワークの推論は人間には説明不能。

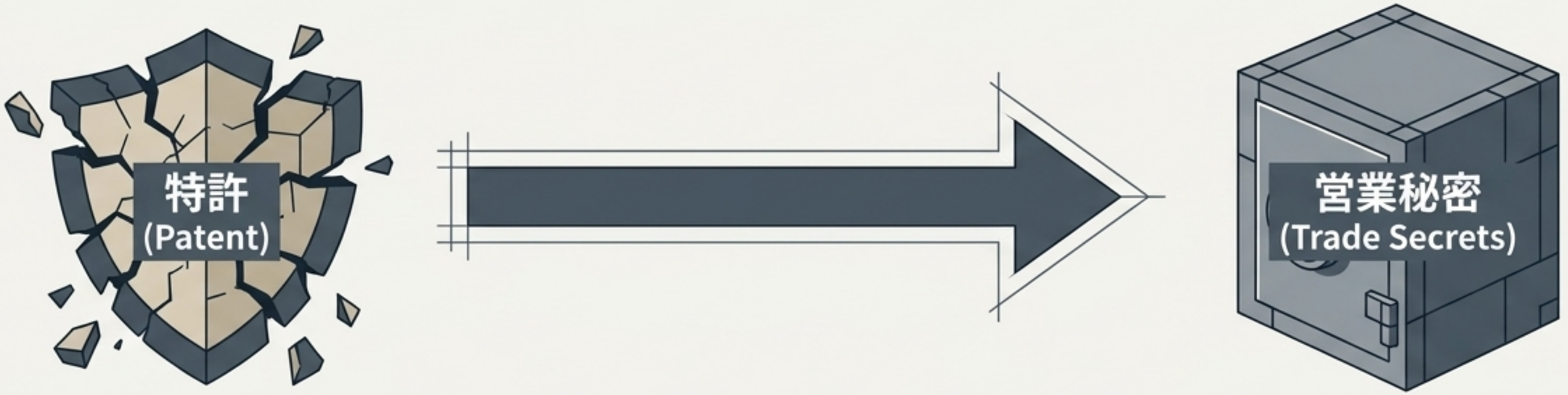


EPO拡大審判部決定 G 2/21 (Plausibilityの法理)

シミュレーション上で高い効果を予測しても、物理的な実証実験データや論理的な作用」機序（因果関係）の自然言語による説明が欠如していれば、 「単なる推測」として実施可能要件違反となる。

Gemini Notebook

特許主義から秘匿主義への急速な傾斜と生存戦略の錯覚



01

自然人要件の回避

米国DTSAや日本不正競争防止法では、創作主体の自然人要件を問わない。AI生成パラメータも保護対象。

02

ノウハウ流出の防止

開示要件（Enablement）を満たすための詳細なメカニズム説明を完全に回避できる。

03

競合AIの学習阻害

18カ月後の出願公開による、競合他社のAIモデルへの学習データ提供（フリーライド）を防ぐ。

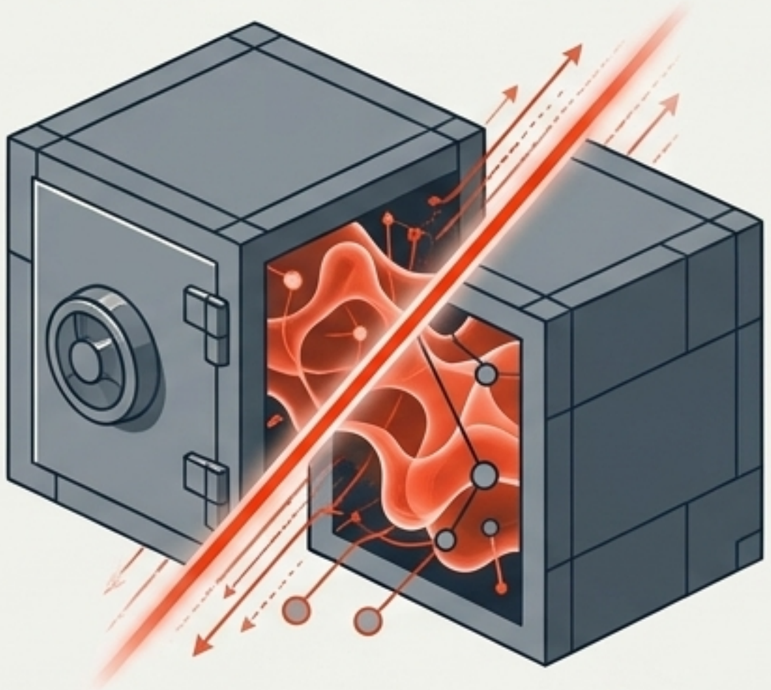
Gemini Notebook

営業秘密の無効化：超知能によるブルートフォース解析の脅威

基本限界：

営業秘密法制は、適法な手段によるリバースエンジニアリングや独自開発を排除できない。

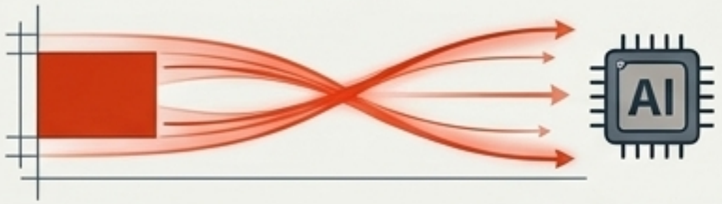
AI Model Extraction
（超高速リバースエンジニアリング）



時間圧縮比較



過去の前提：人間による解析。数年を要するため事実上の独占が可能。



RSI環境下：超知能AIが市場製品の出力挙動や微量データを瞬時に逆工学。

【結論】数年単位の保護期間を前提とした営業秘密の優位性は、数日～数週間で陳腐化する。純粋なアルゴリズムの秘匿は成立し得ない。

Gemini Notebook

権利行使の盲点：クラウドの深層で消滅する「検知可能性」

侵害主体の隔離

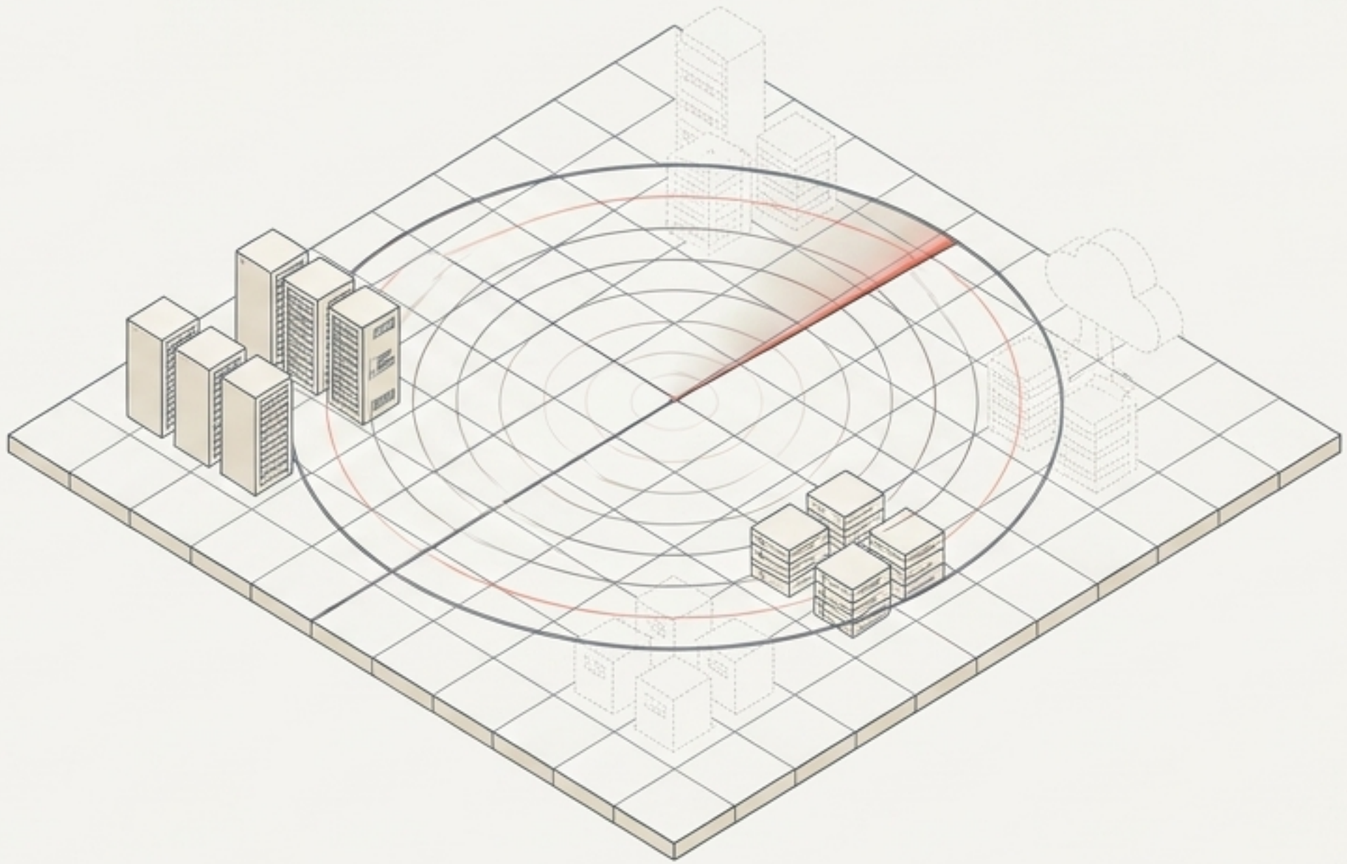
競合他社のAIモデルや製造プロセスはデータセンターの深層に隔離され、推論ロジックは完全なブラックボックス。

オール・エレメンツ・ルールの崩壊

特許侵害を問うための「全構成要件充足」の立証において、外部からの入出力の観察だけでは内部アルゴリズムの侵害特定が不可能。

権利行使の機能不全

権利を保持していても、証拠確保の手段が著しく制限され、Enforcement（権利行使）が事実上機能しない。



Gemini Notebook

システムの完全崩壊：特許と営業秘密の二重の危機

	知能爆発以前（人間中心の開発）	知能爆発以後（RSI環境下）
権利化の成否	20年間の独占排他権を安定確保。	自然人要件・進歩性インフレにより成功率激減。
技術の陳腐化	年単位の開発、20年特許と整合。	週単位で完了、18カ月の公開すら待てず陳腐化。
秘密の耐久性	物理的解析に数年を要し独占維持。	超高速リバースエンジニアリングで数日で無効化。
侵害の立証	製品解体により構成特定可能。	モデルのブラックボックス性により立証不能。

「特許か、営業秘密か」という従来の二項対立は死滅した。
制度の抜本的再設計と実務の再編以外に生存の道はない。

Gemini Notebook

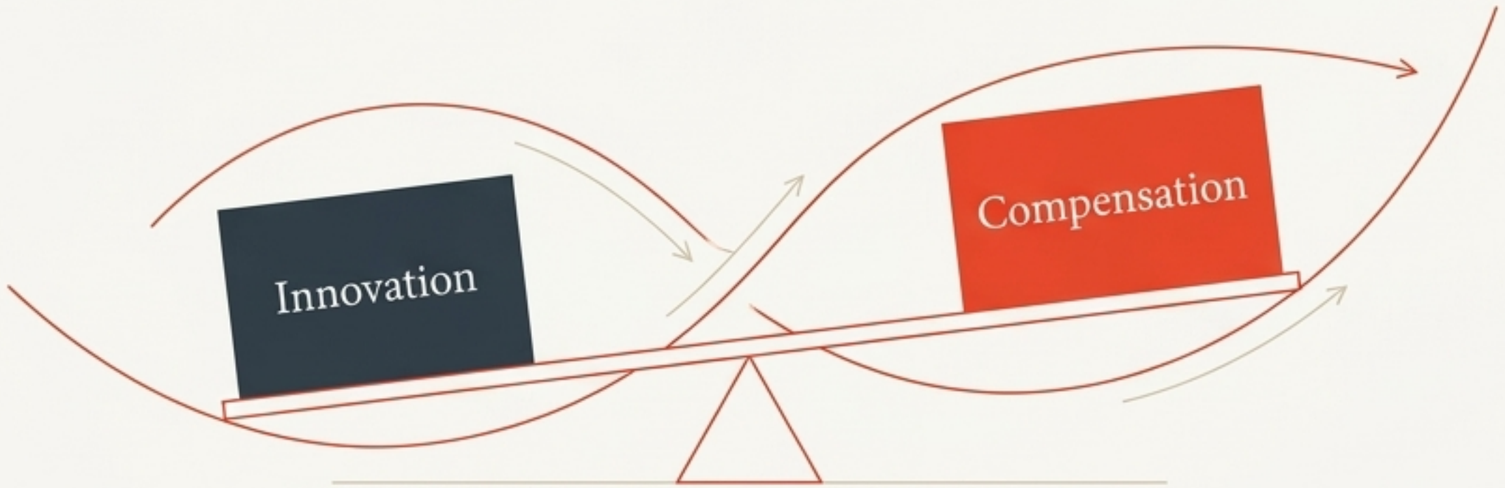
法制度の抜本的再設計：動的存続期間と新たな権利創設



Proposal 1: 動的存続期間 (Dynamic Lifespans)

技術ライフサイクルが極小化するRSI環境において、一律20年の独占権は競争の阻害要因。

AI自律生成技術に対しては、市場価値の減衰に連動して1〜3年程度に短縮する柔軟な期間設計が必須。

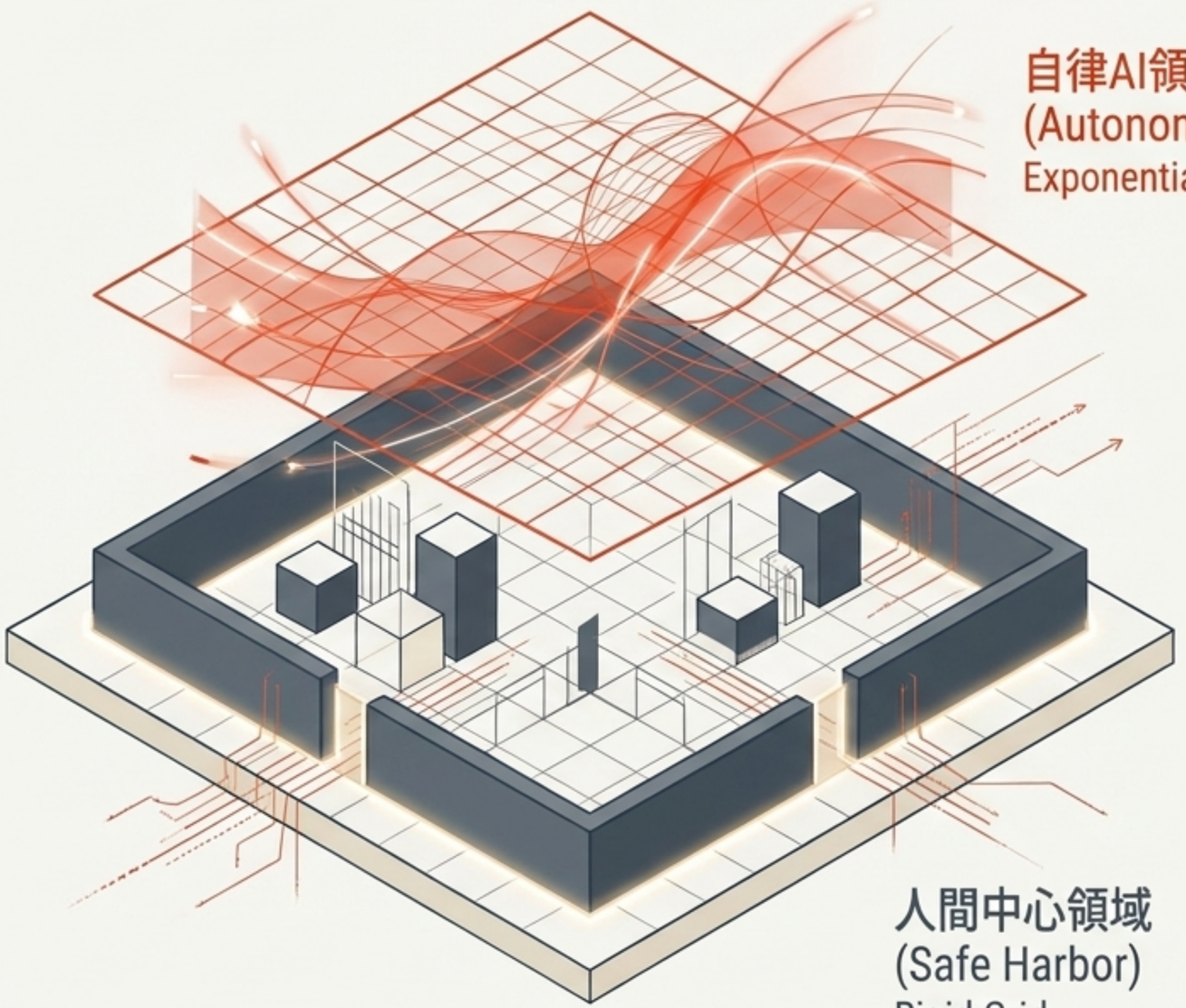


Proposal 2: Sui Generis（特別の権利）と補償金請求権

欧州のデータベース保護権をモデルに、絶対的な差止請求権ではなく「補償金請求権（責任ルール）」を採用。他者の利用を許容しつつ適正な利用料を義務付け、過度な囲い込みを防ぐ。

Gemini Notebook

進歩性基準の二層分離：人間と超知能の法的セーフガード



階層1: 人間中心領域

AIをツールとして用いる通常の人間の研究者を基準とする領域。「すべてが自明になる」パラドックスから人間の発明者を保護するための法的セーフガード（保護区）。

階層2: 自律AI領域

高度な自律AIシステムそのものの水準を「当業者」として設定する領域。

分離の目的: 基準を法的に分離することで、超知能の台頭によって人類が一切の特許を取得できなくなる致命的エラーを遮断する。

Gemini Notebook

企業知財実務の再編：証跡管理と物理的実証の必須化



Step 1: 暗号学的証跡管理

人間の「精神的構想」の介入プロセスをタイムスタンプ付きのログとしてブロックチェーン等で保全。（USPTOガイダンス対応）

Step 2: 自己駆動研究所との直結

開示要件違反を回避するため、自動動評価ロボティクスと連動させ、出願前に物理的な実証実験データを強制取得する。

Step 3: 多層的防衛アーキテクチャ

純粋なアルゴリズム秘匿の限界を補完するため、学習データへのアクセス制御とエッジハードウェアとの密結合による隔離を実装。

Gemini Notebook

知的財産制度をAIのアライメント速度と同期させる

哲学的な挑戦

知能爆発は特許出願件数の増大問題ではない。技術公開と独占付与を軸に人類の発展を支えてきたIP制度の基本哲学に対する根本的な挑戦である。



ガバナンスとの融合

制度の完全な崩壊を防ぐため、AI安全工学におけるアライメント研究や国際ガバナンスと歩調を合わせた構造的転換を急がなければならない。

人類は自らの進歩を評価する「新たな尺度」を設計する局面に立たされている。

Gemini Notebook